

放射線内部被ばく健康影響について

1 放射線内部被ばく健康影響調査（尿中放射性物質サンプリング調査）

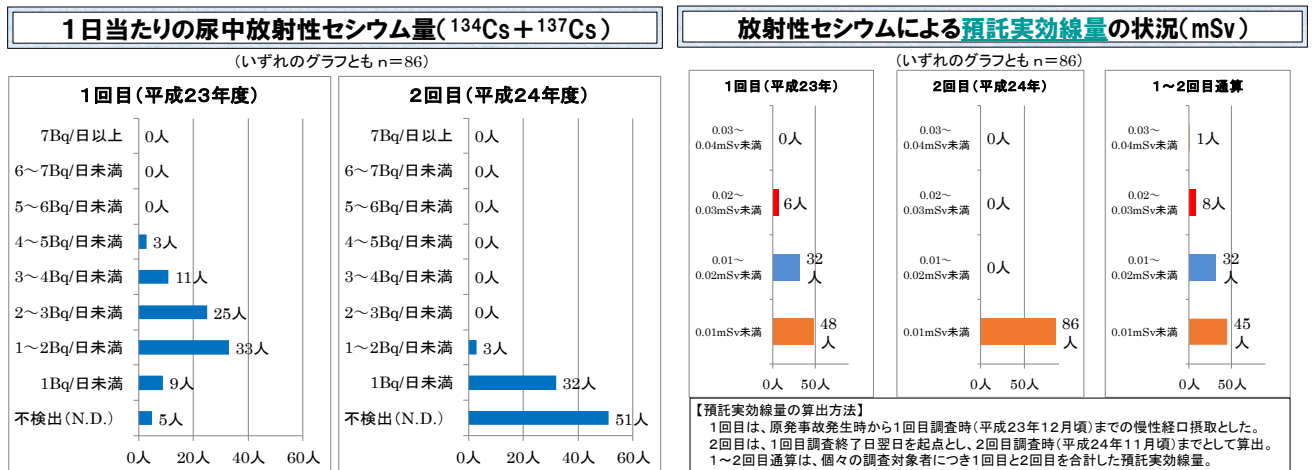
(1) 調査の概要

- ア 調査期間 平成 23 年 12 月～平成 24 年 3 月、平成 24 年 10 月～平成 25 年 1 月
イ 対象者数 平成 23 年度：132 人（一関市 60 人、奥州市 36 人、宮古市・金ケ崎町・平泉町各 12 名）
平成 24 年度：86 人（一関市 44 人、奥州市 23 人、金ケ崎町 8 人、平泉町 11 名）
ウ 調査方法

原則として 2 日以上連続して、2 リットル以上の尿を溜めていただき、検査機関（県環境保健研究センター）において、ゲルマニウム半導体検出器により放射性物質量を測定。その上で、1 日に排出された尿中放射性物質量を計算し、専用のアプリケーションソフトにより預託実効線量（生涯累計の内部被ばく線量）を推計・評価

エ 調査結果

- ・放射性ヨウ素については、平成 23 年度及び平成 24 年度いずれも全員、不検出（検出限界：1.0Bq/ℓ）



(2) 有識者会議における評価等について

いずれの調査においても、放射線セシウムによる健康影響は極めて小さいと考えられる。

2 放射線健康相談等支援事業費補助（平成 24 年度）

(1) 事業概要

市町村、県及び放射線に関する専門機関が連携して住民の健康不安・懸念の解消を図ることを目的として、住民に最も身近な相談窓口である市町村が、放射線による健康リスクや内部被ばくに関する個別健康相談等の事業を実施する場合、その費用の一部を補助。

- ・対象市町 奥州市、一関市及び平泉町
- ・対象事業 (ア) 相談支援等事業（個別健康相談窓口の設置等）
(イ) 内部被ばく検査事業（尿検査による内部被ばく検査の実施等）

(2) 平成 24 年度事業実施状況（内部被ばく検査）

- ・検査実施者数：2,960 人（奥州市 1,330 人、一関市 1,510 人、平泉町 120 人）
- ・放射性セシウム：9 割前後が不検出。検出値の高い者でも 4～5Bq/日
- ・預託実効線量：ほとんどの者が 0.01mSv 未満
- ・放射性ヨウ素：全員不検出

3 今後の対応について

健康影響調査の結果を県民に対して正しく、かつ、わかりやすく伝えるリスクコミュニケーションに努めるほか、継続調査の実施や市町村が実施する事業への支援を行うとともに、国や福島県等で行われている各種調査結果や新たな知見等も踏まえ、様々な観点から県民へのフォローアップに努めていく。